



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

16

犬を飼うことは、必ずやって来  
るお別れまで、少なくとも十六  
十八年間、家庭、家族の一員とし  
て犬とともに暮らすことだとい  
うことを忘れてはなりません。

ですから、飼うことになる犬は  
ぜひとも性質が良く、健康で長生  
きしてほしいものです。家族と気  
が合わなくても困りますし、姿か  
たちがいくらかよくても病気がかり  
していたり、社会化としつけがう  
まくできないために、よき家庭、  
家族、社会の一員になれないよう  
では困ります。

純粋種の品種には、それぞれ特  
有の性質がありますが、それ以上  
に大切なことは、あなたがともに

純粋種と雑種

## 正しく飼えばどちらも良い犬

暮らすことになる犬の健康と性質  
です。体質、性質はそれぞれの個  
体によって異なることをよく知っ  
ておくことです。しかし、特別な  
脳の病気でもない限り、普通の犬  
の両親と、良いブリーダーやケン  
ネルから来る犬では、性質の悪い  
犬などいないのです。

もし性質の悪い犬に出会ったら、  
それはほとんどの場合、育て方、特  
に社会化がうまくいっていないの  
だと考えてください。また、雑種と  
呼ばれる犬の中にも、家庭で飼うの  
にふさわしいサイズで、しかも良い  
犬がたくさんいます。ですから、純  
粋犬だけが良い犬というわけでは  
ありません。雑種でもハーフでも  
んな同じ良い犬なのです。

しかし、うちの犬は雑種だから  
残飯でいいとか、雑種は病気をし  
ないからワクチンやフィラリアの  
予防もいらない、定期的な健康診  
断や中年以降のドックなどもやる  
必要がないーという人がいるのに  
は困ってしまいます。

皮毛の手入れや管理については  
犬種によって異なりますが、栄養  
病気の予防、しつけ方や健康管理  
のあり方は、犬の種類が違って  
いても基本的には同じです。われわ  
れ人間と同じ命を持つ犬たちです  
から、雑種も純粋種も、飼う方に  
は差はありません。

(ダクタリ動物病院広尾病院院長、  
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・  
ソサエティ会長)

《産経新聞2004年7月18日掲載》